

交(差)点(の)ある(こ)ども(園)

マチとヒトをつなげる交差点のあるこども園



このこども園では、交差点があることによって様々なくモノ・コト・ヒトが繋がる。毎日登園するこどもたち、テラスで食事を取る地域住民、企画室でサークル活動を楽しむ高齢者、こどもに作物の育て方を教える農家など、周辺の全ての人々を交差点のあるこども園が繋ぐ。ここで過ごすこどもたちは、地域と交わり街とともに成長する。

01 交差点がもつ機能

複数本の道路が交差することで形成される交差点は、様々な場所からやってきた人が集まる地点となる。その場所では、人や物が交わり、かねてより交易が発達してきた。こども園の拠点となる交差点は、様々な方向から来る人を交わせ、繋いでいく機能をもっている。



02 周辺との関係

このこども園は、畑・住宅・高齢者施設に囲まれた場所に位置している。こども・親・高齢者・農家と様々な世代の人々が暮らす街であり、地域全体でこどもの成長を見守ることができる場所である。



03 交差点の建築化

こども園として必要な機能でありながら、周辺地域の人々も利用が可能な施設を併設し、交差点での交流を生み出すこども園を計画する。



こども・高齢者・地域住民それぞれの利用空間を、3つのボリュームで敷地内に配置

ボリュームの間を縫うようにして、道で繋ぎ交差点を形成

道に沿って内部と外部の境界を整理し壁を立ち上げる

04 諸室配置計画

こども・高齢者・地域住民の動線が交差する建物の中心にまちかどテラスを設け、地域全体が交流する場とする。

より上位の発達段階にある5歳児の保育室を、高齢者との交流をより図りやすい北側に配置し、職員ゾーンに向かって0歳児保育室までを順に配置した。

保育室同士は家具で間仕切り、異年齢のこども同士での交流も行きやすくする。



